

BIG KNOB

STUDIO / STUDIO+

Monitor Controller | Interface

日本語オーナーズマニュアル



発行日 2017 年 8 月



安全の為に

この製品を設置、使用される前に必ずお読みください。

お使いになる方や周囲の方々への危害、財産への損害を防ぐため、下記の内容を守ってこの製品を安全にお使いください。本書はいつでもご覧になれる場所に保存してください。

本書で使用する記号について

	「必ず守ってください」という強制を表しています。		「絶対にしないでください」という禁止を表しています。
--	--------------------------	--	----------------------------



警告

この記号は取り扱いを誤ると死亡や重傷、火災の原因になる可能性がある内容に付いています。



必ず実行

本書を全て読むこと

この製品を設置、使用する前に必ず本書を全てよく読み内容に従ってください。



禁止

水分をかけたり湿気にさらさないこと

この製品の上に花瓶や飲み物など、液体が入ったものを置かないでください。また、この製品を雨や霧にさらさないでください。感電や火災、故障の原因になります。



必ず実行

電源コードは安全に配置すること

電源コードをストーブの近くなど高温になる場所に設置しないでください。また踏んだり物に挟んだり、無理な配線を行うと、接続ケーブルが損傷して火災の原因になる場合があります。また足など体の一部を引っ掛けるような場所に配置しないでください。負傷の原因になる場合があります。



禁止

本体を落下しないこと

本体の故障はもちろん、周囲の方が負傷する原因になります。



禁止

異臭や異常を感じたら修理を依頼すること

正常に機能しない、接続ケーブルやプラグに異常がある等の場合は、修理をお申し付けください。



必ず実行

電源コードは仕様に適合した電源に接続すること

適合しない電源に接続すると、本体の故障、火災や感電の原因になる場合があります。



禁止

大音量で使用しないこと

この製品をアンプやスピーカーなど他の機器と組み合わせて、大音量を再生しないでください。一時的または恒常的な難聴や、スピーカーなど接続している機器が故障する原因になる場合があります。



必ず実行

移動するときはケーブルを全て抜くこと

接続ケーブルを接続したまま本体を移動しないでください。ケーブルを痛めたり、周囲の方が転倒する原因になります。



禁止

本体内部に液体や物をいれないこと

火災や本体故障の原因になる場合があります。この場合は修理をご依頼ください。



禁止

改造を行わないこと

決して製品内部を開いたり、ユニットパネルを動かしたり、その他マニュアルに記載されていない調整を行わないでください。これらの行為は感電やその他災害に繋がる可能性があります。また、あなたの製品にも損害を与える可能性があります。製品内部を開くと、保証対象外となりますのでご注意ください。



禁止

電源コードを濡れた手でさわらないこと

感電の原因となる場合があります。



禁止

長時間にわたってヘッドフォンで大きな音量を聴かないこと

一時的または恒常的な難聴になる場合があります。

**警告**

この記号は取り扱いを誤ると死亡や重傷、火災の原因になる可能性がある内容に付いています。



必ず実行

長時間使用しない時や落雷の危険があるときは電源プラグを抜くこと

火災や感電、故障の原因になる場合があります。



必ず実行

電源コードは必ずこの製品に付属のものをを使うこと

適合しないものを使用すると通電中に電源コードが加熱し、火災の原因になる場合があります。



必ず実行

電源コードや電源プラグに異常がある場合は使用を中止し、修理を依頼すること

電源コードやプラグの磨耗、接触不良等の場合は本体を使用せず、修理をご依頼ください。



禁止

本体の内部や周囲で可燃性ガスのスプレーを使用しないこと

ガスが滞留して引火による火災などの原因になります。



禁止

本体の換気用開口部をふさがないこと

本体内部の温度上昇を防ぐため、この製品の表面には換気用開口部があります。この開口部をふさぐと適切に換気ができず、内部の温度が上昇して故障や火災、誤作動の原因になる場合があります。

**注意**

この記号は取扱を誤ると負傷、機器の損傷や物的損害の原因になる可能性がある内容に付いています。



必ず実行

本体の上に載ったり重いものを載せないこと

製品の故障の原因になります。



禁止

ボタンやスイッチ、入出力端子に無理な力を加えないこと

本体の故障やお使いになる方が怪我をする原因になります。



禁止

裸火を近づけたり熱源の近くに設置しないこと

この製品に直射日光を当てたり、ストーブなど熱源になるものの近くに置かないで下さい。本体が故障する原因になります。

修理

- ・日本仕様の Mackie 製品の修理は、音響特機株式会社または提携サービスセンターで行っています。Mackie 製品の修理やメンテナンスが必要な場合は、次の手順に従ってください。
- ・本書でご紹介しているトラブルシューティングの内容を確認してください。
- ・テクニカルサポートに電話、もしくは support_mackie@otk.co.jp にメールをし、「メンテナンス申込書」を請求してください。「メンテナンス申込書」に必要事項をご記入の上、04-2944-3812 へ FAX してください。折り返し RA 番号と送付先のサービスセンターが記載された修理受付表を FAX で返送致します。RA 番号はサービスセンターへ送付される前に必ず取得してください。
- ・オーナーズマニュアルとケーブル類は同梱しないでください。修理には必要ありません。
- ・本体を梱包材とともに製品パッケージに入れて、サービスセンターへ送付してください。当社では輸送上のダメージを保証することができません。
- ・必ず、RA 番号が記載された修理受付表のコピーを同梱してください。また送り状の通信欄にも、RA 番号と商品名、製造番号を記載してください。RA 番号のない修理品は受付することができません。

保証

- ・本機の保証はご購入後 1 年間となっております。
- ・正常な使用状態で本体に不具合が生じた場合、正規のサービス担当者が無償で修理を行います。ただし、下記の場合は保証規定から除外されておりますので、予めご了承ください。
- ・お客様による輸送、移動中の落下、衝撃など、お客様のお取り扱いが適正ではなかったために故障が生じた場合
- ・お客様のご使用上の誤り、不適正な改造、弊社の認可のない改造及び修理が行われている場合
- ・火災、煙害、ガス害、地震、落雷、風水害などの天変地異、あるいは異常電圧などの外部要因によって故障が生じた場合
- ・本機に接続している機器及び消耗品に起因する故障、損傷
- ・正常な状態でのご使用中でも、自然消耗、摩耗、劣化によって故障あるいは損傷が生じた場合
- ・日本国外でご使用中の故障、損害

すべてのサポート・修理に関する情報は下記 Mackie 日本語ホームページをご参照ください。

mackie-jp.com/support

サポートセンター

〒 359-0023 埼玉県所沢市東所沢 2-37-1

塚腰運送敷地内

☎ 04-2944-3811

FAX 04-2944-3812

✉ support_mackie@otk.co.jp

営業日 月曜日～金曜日 9:00～17:30

休業日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏季

営業窓口

東京 東京都中央区日本橋小伝馬町 10-1

☎ 03-3639-7800 (代表)

FAX 03-3639-7801

大阪 大阪府大阪市淀川区宮原 2-14-4

☎ 06-6152-7751

FAX 06-6152-7752

名古屋 愛知県名古屋市中区泉 1-23-30

☎ 052-950-3324

FAX 052-950-3325

広島 広島県広島市中区富士見町 16-22-604

☎ 082-258-2916

FAX 082-2582917

福岡 福岡県福岡市南区大橋 4-16-18-201

☎ 092-554-6066

FAX 092-554-6064

仙台 宮城県名取市杜せきのした 2-2-16-101

☎ 022-797-5281

FAX 022-797-5282

営業日 月曜日～金曜日 9:00～17:30

休業日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏季

ご質問は電子メールでも承ります。

✉ sales_mackie@otk.co.jp

はじめに

Big Knob Studio と Big Knob Studio+ は、世界中で愛されてきたベストセラーモニターコントローラー、Big Knob の後継機です。快適なレコーディング環境を生まれ変わった Big Knob シリーズで構築しましょう。

新たな Big Knob は、世界最高レベルのレコーディングを可能とするデュアル Onyx™ プリアンプ、ゼロレイテンシーオーバーダビング、アーティストとのコミュニケーションを円滑にするトークバックなどのプロフェッショナルスタジオに必要な機能を搭載しています。

音源ソースを簡単に選択 - もちろん DAW からの USB プレイバックも選択可能 - これらのソースを任意のスタジオモニターへ出力することができます。

Big Knob Studio と Big Knob Studio+ には独立したゲイントリムがすべての入出力に採用されており、バランスの取れたリスニングレベルを提供します。

2つの独立したヘッドフォン出力が搭載されており、それぞれのレベルを個別にコントロールすることができます。加えて、スマートフォン用の入力端子もフロントパネルに搭載しています。

Big Knob Studio と Big Knob Studio+ は究極のコンパクトスタジオソリューションとなります。あとはスタジオモニターを購入するだけです。

Contents

はじめに	5
Big Knob の機能	6
クイックスタート	6
Big Knob Studio 接続図	7
Big Knob Studio+ 接続図	8
リアパネルの機能	11
1. 電源コネクター	11
2. 電源スイッチ	11
3. USB 入力 / 出力端子	11
4. USB Rec Src Select スイッチ	12
5. XLR & バランスフォンコンボジャックインプット	12
ファンタム電源	12
6. フォン入力端子	13
7. +4 dB / -10 dB レベルスイッチ	13
8. Aux Mix/Cue In フォン入力 [Big Knob Studio+]	13
内蔵 Talkback マイク (トップパネル)	13
9. Talkback マイク XLR 入力 [Big Knob Studio+]	13

10. Talkback Int/Ext スイッチ [Big Knob Studio+]	14
11. Footswitch 端子 [Big Knob Studio+]	14
出力部分の概要	14
12. フォン 2-Track 出力端子	14
13. +4 dB / -10 dB レベルスイッチ	15
14. Studio/Phones Amp 出力 [Big Knob Studio+]	15
15. フォンモニター出力	15
フロントパネルの機能	15
16. ステレオミニフォン入力端子	15
17. フォン端子	15
トップパネルの機能	16
18. Mic/Line/Inst Gain ノブ	16
19. Trim ノブ	16
20. +48V ファンタム電源スイッチ [Ch.1 および Ch.2 のみ]	16
21. Stereo Pan スイッチ [Ch.1 および Ch.2]	16
22. Input / 2-Track Source Select ボタン	16
23. Cue Source ノブ [Big Knob Studio+]	17
24. Direct Monitoring ノブ	17
25. Phones ノブと 2-Track / Cue スイッチ	17
26. Studio Outs オン / オフ ボタン [Big Knob Studio+]	17
27. Studio Outs Level ノブ [Big Knob Studio+]	17
28. Input メーター	18
29. 大きなボリュームノブ [通称 Big Knob]	18
30. Mono ボタン	18
31. Mute ボタン	18
32. Dim ボタン	18
33. PWR / USB / +48V LED	18
34. Monitor Select ボタン	19
35. Trim ノブ	19
36. Talkback Level ノブ	19
37. To 2-Track ボタン [Big Knob Studio+]	19
38. To Cue ボタン	19

付録 A：サービスについて 20

付録 B：技術情報 21

Big Knob 仕様書	21
Big Knob Studio 寸法	22
Big Knob Studio+ 寸法	23
Big Knob Studio ブロックダイヤグラム	24
Big Knob Studio+ ブロックダイヤグラム	25

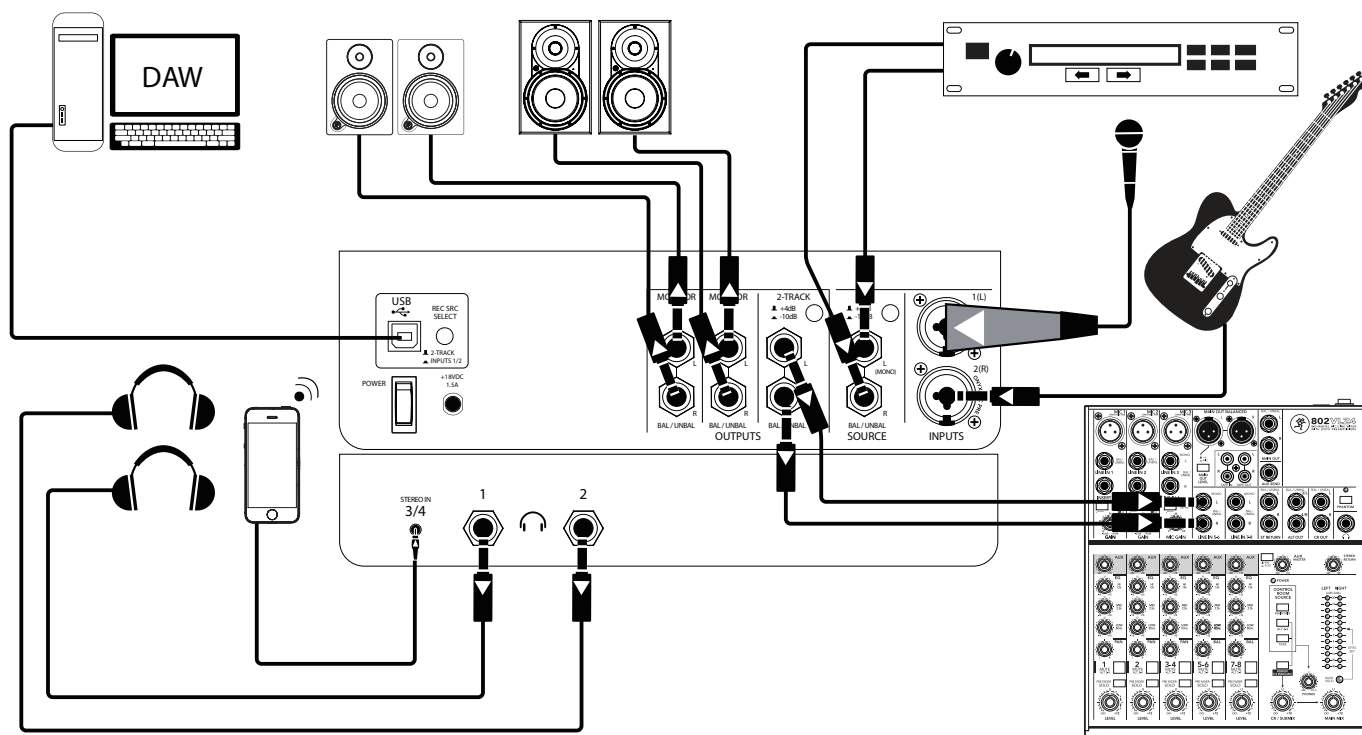
Big Knob の機能

- ・プロフェッショナルスタジオ向けのソース・モニター選択機能
 - ・複数の音源ソースと任意のスタジオモニターペアを選択
 - ・初代 Big Knob のボリュームコントロールを継承
 - ・独立したトリムをすべての入出力に採用
 - ・モノ、ミュート、DIM スイッチを搭載
- ・柔軟な USB オーディオインターフェース
 - Big Knob Studio: 2 x 2
 - Big Knob Studio+: 2 x 4
 - ・コンデンサーマイク用のファンタム電源を搭載した、高品質 Onyx マイクプリアンプを搭載
 - ・192 kHz/24 bit の高品質のレコーディング/プレイバック
 - ・Cue ミックスはダイレクト入力とその他の入力をレイテンシー無しでブレンド可能
 - ・ポッドキャストのようなアプリケーションにも対応する柔軟なレコーディング回路
- ・プロフェッショナルスタジオに必要な様々な機能を搭載
 - ・フロントパネルのスマートフォン向けステレオミニ端子を含む、フレキシブルな入力端子
 - ・それぞれ独立したレベルコントロールが可能なデュアルヘッドフォン出力端子 (Big Knob Studio+ では USB と AUX ソースの切り替えが可能)
 - ・アーティストとの円滑なコミュニケーションを実現する内蔵トークバックマイク
 - ・外部マイク入力端子とフットスイッチ端子を搭載したフレキシブルなトークバックオプション [Big Knob Studio+ のみ]
 - ・ヘッドフォンディストリビューションシステムに最適な Studio 出力を搭載 [Big Knob Studio+ のみ]
 - ・16 セグメントの高解像度な入力ソースレベルメーター
- ・“戦車級に頑丈な” ボディーデザイン
- ・メジャーな DAW ソフトウェアに対応 (Mac / Windows)
- ・Tracktion® レコーディングソフトウェアが付属

クイックスタート

すぐにも Big Knob Studio / Studio+ を箱から取り出し、試してみたいところですが、このページだけは読んでください。その他のページは必要になった時で構いません。

1. Windows ユーザー：最新のドライバーを下記 URL より、手順に従いインストールしてください。
mackie-jp.com/manual/#software_bigknob
 Mac ユーザー：ドライバーをインストールする必要はありません。
2. 全てのノブを最低まで下げてください。
3. 全てのスイッチをオフにしてください。
4. Big Knob に以下の機器に接続します。：
 - ・マイクロフォンは XLR 端子へ接続してください。必要でしたらファンタム電源をオンにしてください。
 - ・キーボード、ドラムマシン、MP3 プレイヤーをラインレベルインプットへ
 - ・その他のステレオ再生機器を接続してください。
5. ケーブルを使用しモニター出力からパワースピーカー（もしくはパッシブスピーカーに接続されているパワーアンプ）へ接続してください。
6. Big Knob の USB 端子に USB ケーブルをしっかりと差し込み、USB ケーブルの反対側をコンピューターへ接続してください。
7. 電源サプライのコネクターを Big Knob の電源端子に接続し、時計回りに回してしっかりとロックしてください。電源サプライをコンセントへ接続してください。
8. Big Knob の電源を入れてください。スタジオモニター（もしくはアンプ）の電源を入れてください。コンピューターの電源を入れてください。
9. 入力に接続した機器のボリュームは、通常使用する際と同じにしてください。
10. 希望の入力ソースとモニターをセレクトスイッチにより選択してください。
11. 快適なリスニングレベルになるまで、ゆっくりとボリュームノブを回してください。



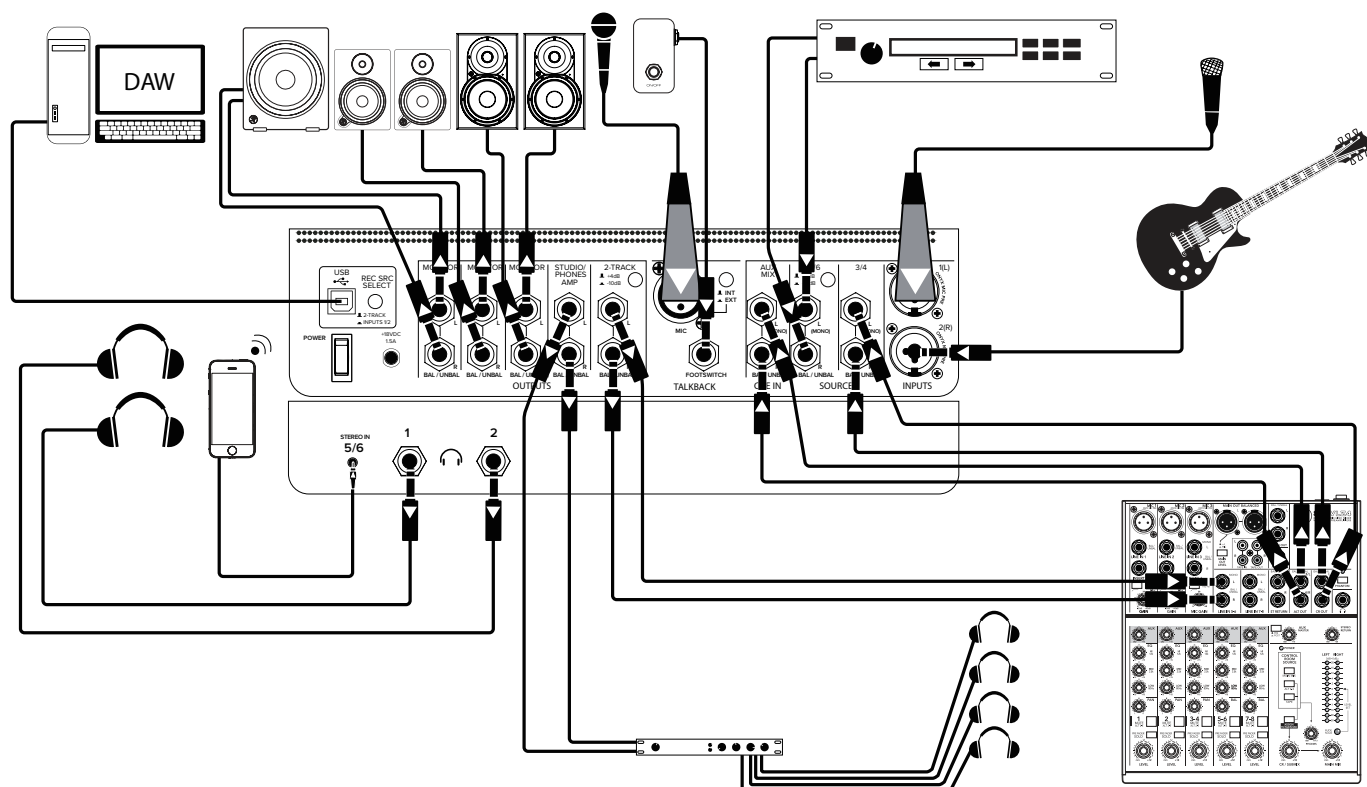
Big Knob Studio+ の方がボタンが多くて魅力的だと思いませんか？ シンプルな Big Knob Studio をあなどってははいけませんよ。前ページでも説明したとおり、Big Knob Studio もたくさんの素晴らしい機能を搭載しています。Big Knob Studio を設置する場所を決めたら、ケーブルを接続していきましょう。

この例では、マイクを XLR 入力 1 (L) に、ギターをフォン入力 2 (R) に接続しています。Source Input 3/4 はリアパネルのフォン端子だけでなく、フロントパネルのステレオミニフォン端子の入力にも対応しています。これらは同時に接続しても構いませんが、同時に使用することはできません。両方の端子にソースが接続されている場合、フォン端子よりもステレオミニフォン端子の信号が優先されます。この例ではフォン入力端子に 2-Track プレイヤーを接続し、ステレオミニフォン入力端子にスマートフォンを接続しています。

出力セクションも、入力セクションと同様にわかりやすくなっています。ここでは XR スタジオモニターシリーズのペアを Mon Output A - L/R 端子に接続し、MR スタジオモニターシリーズのペアを Mon Output B - L/R 端子に接続しています。また 2 つのヘッドフォンはフロントパネルにあるフォン出力端子に、2-Track L/R 出力端子はミキサーのフォン L/R 入力端子に接続されています。最後に、リアパネルの USB ポートとお気に入りの DAW をインストールしたコンピュータを接続しましょう。

これで接続は完了です。お好きなように楽しんでください。トップパネルには様々なスイッチやボタンがありますが、これらは何に使用するのでしょうか。言わずもがな、センターには Big Knob が配置されています。これらのスイッチやボタンで、入出力やボリュームなどをセットすることができます。P.11 より、Big Knob Studio のそれぞれの機能を説明していきます。

Big Knob Studio+ 接続図



Big Knob Studio+ は Big Knob Studio に似ていますが、いくつかの機能が追加されています。それではみていきましょう。この例では、マイクを XLR 入力 1 (L) に、ギターをフォン入力 2 (R) に接続しています。Source 入力 3/4 端子は外部ミキサーのコントロールルーム (CR) 出力端子に接続されています。ミキサーに入力される音源をここで再生します。また Cue In (Aux Mix) 端子には同じミキサーの Alt 3/4 出力端子が接続されています。

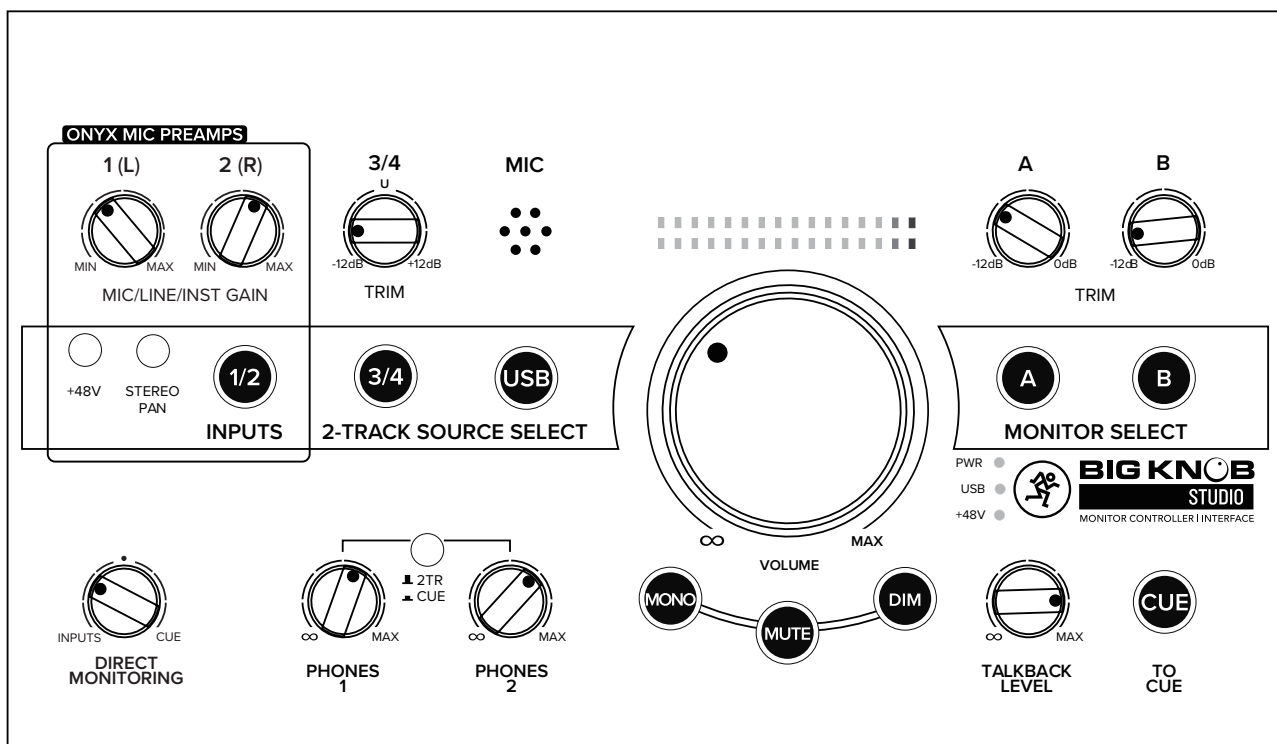
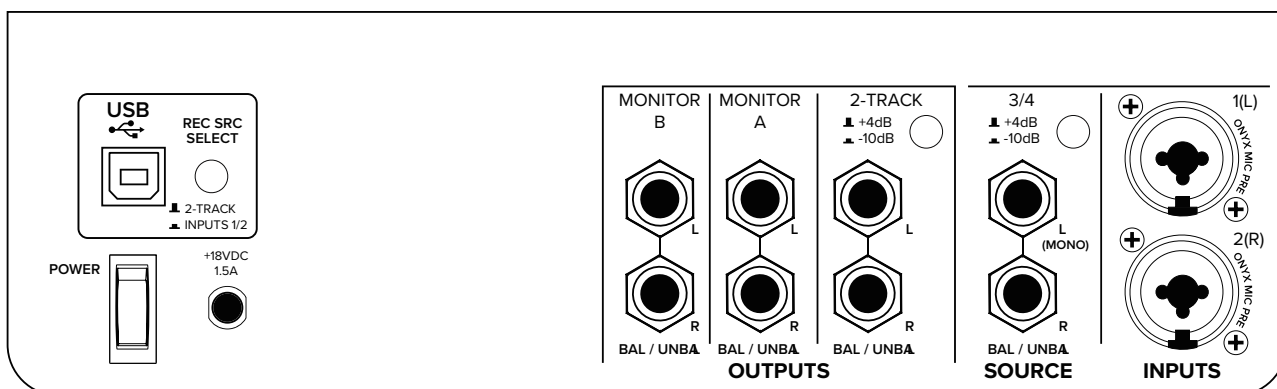
Source Input 5/6 はリアパネルのフォン端子だけでなく、フロントパネルのステレオミニフォン端子の入力にも対応しています。これらは同時に接続しても構いませんが、同時に使用することはできません。両方の端子にソースが接続されている場合、フォン端子よりもステレオミニフォン端子の信号が優先されます。この例ではフォン入力端子に 2-Track プレイヤーを接続し、ステレオミニフォン入力端子にスマートフォンを接続しています。

次に出力セクションをみていきましょう。ここでは XR スタジオモニターシリーズのペアを Mon Output A - L/R 端子に接続し、MR スタジオモニターシリーズのペアを Mon Output B - L/R 端子に接続しています。また Mon Output C - L/R 端子には MRS10 サブウーファーを接続しています。Studio / Phones / Amp L/R 出力端子には、複数のヘッドフォンにソースを分配するためのヘッドフォンアンプを接続しています。加えて、2 セットのヘッドフォンが Big Knob Studio+ のフロントパネルにある 2 つの Phones 出力端子に接続されています。

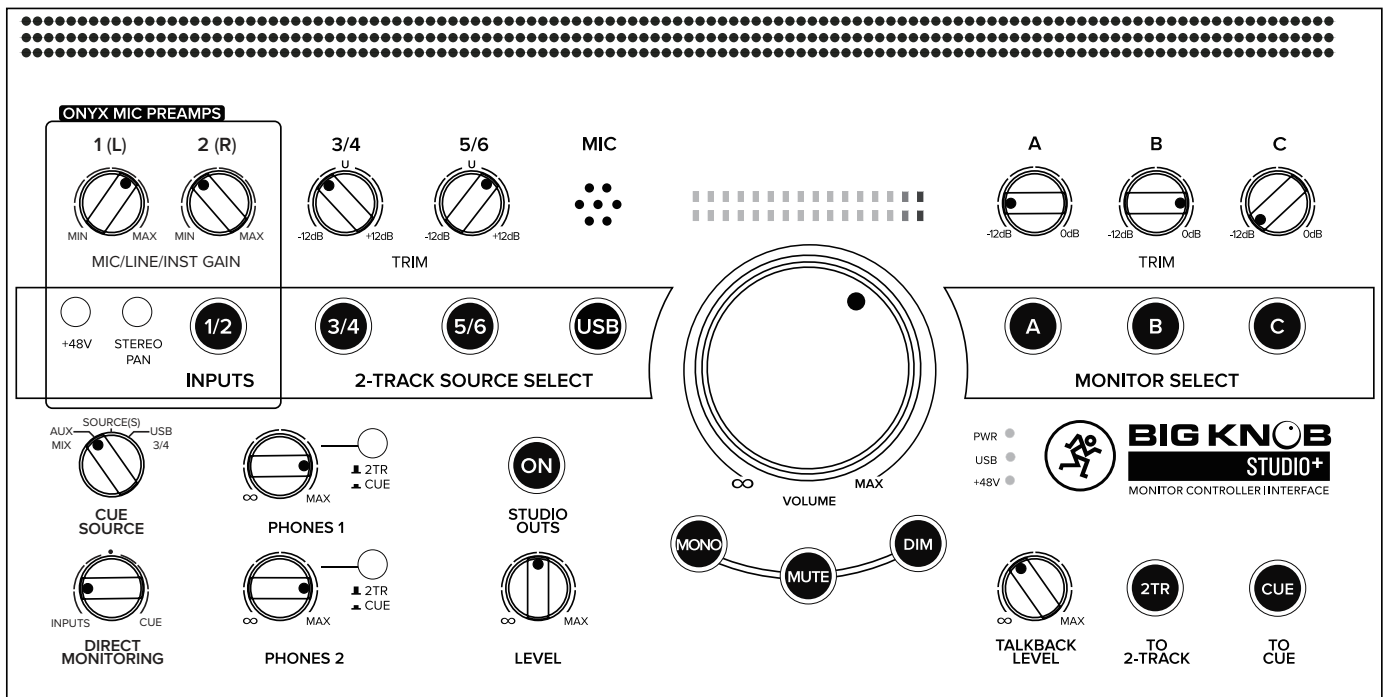
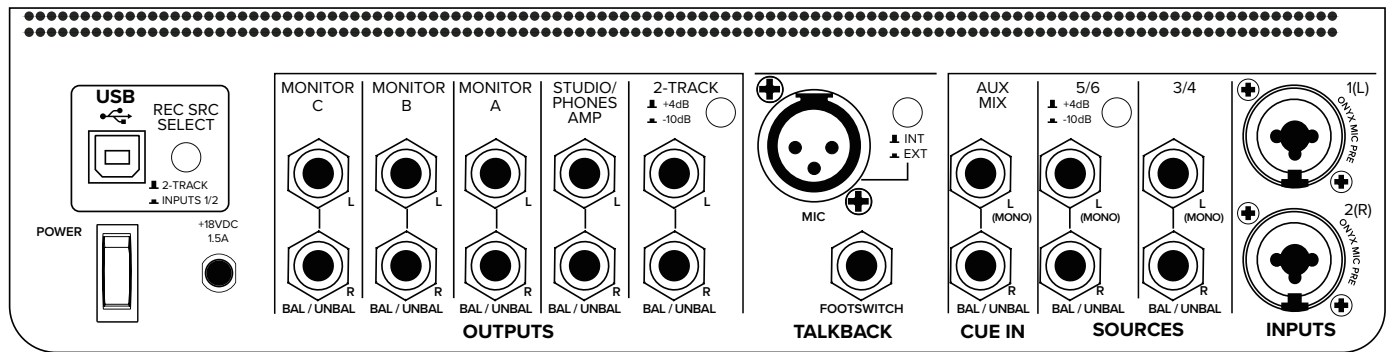
2-Track L/R 出力端子はミキサーのフォン L/R ライン入力端子に接続されており、Big Knob Studio+ とミキサーの間を行き来しています。最後に、リアパネルの USB ポートとお気に入りの DAW をインストールしたコンピュータを接続しましょう。

これで接続は完了です。お好きなように楽しんでください。トップパネルには様々なスイッチやボタンがありますが、これらは何に使用するのでしょうか。言わずもがな、センターには Big Knob が配置されています。これらのスイッチやボタンで、入出力やボリュームなどをセットすることができます。P.11 より、Big Knob Studio+ のそれぞれの機能を説明していきます。

Typical Big Knob Studio+ Setup



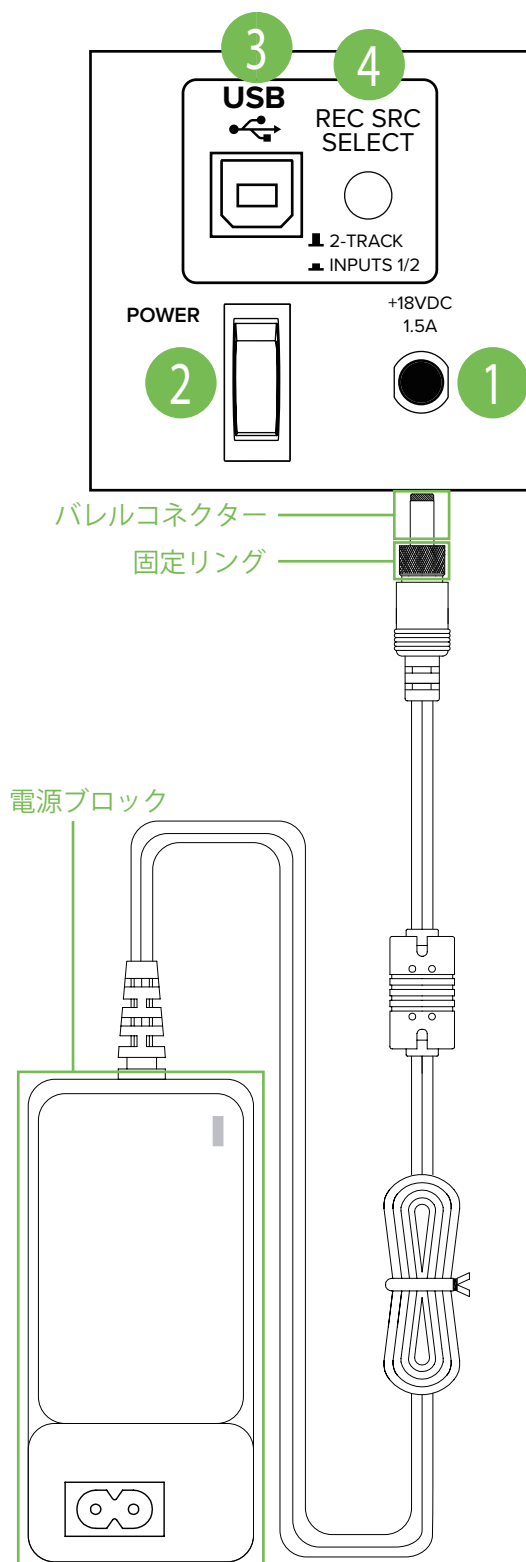
Big Knob Studio+



リアパネルの機能

リアパネルは様々な機器を接続する部分となります。機器の信号は Big Knob によりルーティングされ、出力端子から出力されます。

またその他多数のオプション機能があるので、それらについて紹介します。まず最初に電源の入れ方からみていきましょう。



1. 電源コネクタ

Big Knob Studio と Big Knob Studio+ は 100VAC~240VAC まで対応できるユニバーサル AC 電源により駆動します。そのため変電スイッチなどはありません。理論的には世界中どこでも使用することができます。これは従来の電源よりも電圧低下や電圧ノイズの影響を受けにくく、加えて電磁気のアイソレーションも向上しているため、電磁ノイズの影響も受けにくい仕様となっています。

電源アダプターとケーブルは Big Knob に同梱しています。ロック機能がついたコネクタを本体に接続してください。リングを時計回りに回すことで本体とケーブルを固定することができます。締めすぎには注意してください。固定されていることが確認できたら、それ以上リングを回さないでください。付属している電源ケーブルのメス側をアダプターに接続し、オス側をコンセントに接続してください。電源が問題なく接続されていれば、Big Knob の電源状態に関わらず電源アダプターの LED が緑色に点灯します。



工場出荷時に同梱されている電源アダプター以外は使用しないでください。

2. 電源スイッチ

このスイッチを押しこむことで電源を入れます。上部を押すことで電源が入り、下部を押すことで電源をきることができます。

3. USB 入力 / 出力端子

内蔵する USB インターフェースを介して、コンピューターへデジタルオーディオを送送できます。オーディオインターフェース機能を使用するには、まず下記リンクから ASIO ドライバーをダウンロードしてください。 mackie-jp.com/manual/#software_bigknob Mac に接続する場合は特別なドライバーをインストールする必要はなく、2x2 (Big Knob Studio) もしくは 2x4 (Big Knob Studio+) のデバイスとして認識されます。

Big Knob の USB ルーティングは、非常にパワフルな機能となっています。入力信号は常にコンピューターへ直接送られますが、モニターやヘッドフォン出力にも直接ルーティングすることができます。

同様にステレオ再生および / もしくは 2 トラック出力は、ソフトウェア上でミュートを有効にしない限り、モニタリングとオーバーダビングのために常にデバイスに戻ります。フォンとモニター出力のボリュームコントロールは独立しているため、どちらか一方もしくは両方から出力するかをコントロールすることができます。アナログ入力信号はモニター用途で再生信号と混ぜられていることがあるため、コンピューターによるレイテンシーに関わらず、リアルタイムにオーバーダビングが発生することがあります。

4. USB Rec Src Select スイッチ

こんなオプションが欲しかったですね？新たに搭載された便利な切り替えスイッチについて説明します。Big Knob Studio と Big Knob Studio+ は複数アプリケーションのレコーディングパスを選択できます。

この2ポジションのラッチングスイッチは、レコーディングの際にどのソースを選択するかをシンプルに決定できます。

スイッチが押し込まれていない状態 (2-TRACK) では、2トラックとモニター出力が録音されます。言い換えると、USB 出力へ送られる信号は、2-Track 信号と同じです。スイッチを押した状態 (INPUTS 1/2) では Onyx マイクプリアンプチャンネル 1 およびチャンネル 2 の信号のみが、USB センド 1/2 から DAW へ送られます。

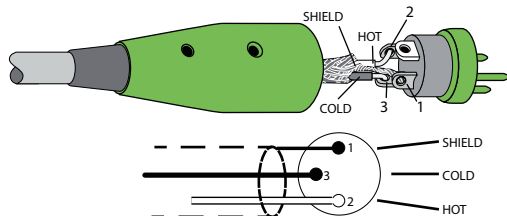
5. XLR & バランスフォンコンボジャックインプット

Onyx Wide-Z プリアンプは XLR 端子からのバランスマイク入力、および TRS フォン端子からのバランス / アンバランスラインレベル入力の両方の信号を受けることができます。マイクプリアンプは、高い信頼性とヘッドルームを搭載する Onyx デザインです。現在市場に出回っているスタンドアロンタイプのマイクプリアンプに匹敵する製品レベルが特長です。

配線は以下のようになっています。これは AES (Audio Engineering Society) が定めたものです。

バランス XLR

シールド (グラウンド)	ピン 1
ホット (+)	ピン 2
コールド (-)	ピン 3



ファンタム電源

現在のプロ用コンデンサーマイクの多くは、ファンタム電源、つまりミキサーからマイクの回路へ音声を送る心線を通して送る低電流の DC 電圧を必要とします (セミプロ用コンデンサーマイクはよく乾電池で同じことをしています)。「お化け」を意味するファンタムという名は、外部電源が不要でその影響も受けないダイナミックマイク (たとえば SHURE SM57 や SM58) からは「見えない」ことからきています。

Big Knob のトップパネルにある +48V ボタンを押すことで、ファンタム電源のオン / オフを切り替えることができます。



ファンタム電源が有効になっている状態で、絶対にアンバランスマイクやリボンマイクを接続しないでください。安全だという確証がない限り、楽器などの出力をファンタム電源が有効になっている XLR 入力端子に接続しないでください。ファンタム電源が有効になっている時にマイクを XLR 入

力端子に接続する際は、必ず該当チャンネルのゲインが下がりきっていることを事前に確認してください。これにより予期せぬポップ音を防ぐことができます。

TRS フォン端子はマイクプリアンプと同じ回路を共有しており (ファンタム電源は有効にはなりません)、バランスソースおよびアンバランスソースの両方に対応しています。

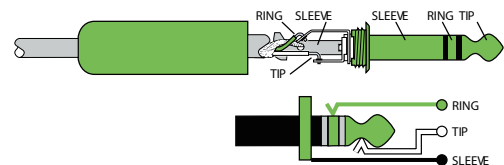
加えて、両方のチャンネルはギターなどの Hi-Z 接続にも対応しているので、ギターなどのハイインピーダンス楽器を DI ボックス無しで直接接続することができます。

- TRS フォン端子には、アンバランス TS (チップ - スリーブ) 端子も接続することができます。プラグの形状が TS タイプ (ギタープラグに似た形状) なのか、TRS タイプ (ヘッドフォンプラグに似た形状) でリングがスリーブに接続されているかを確認してください。また、プラグがジャックに奥までしっかりとさしこまれているかを確認してください。これらの入力はモノ・サミング (両方のパス) ですが、トップパネルのステレオパンスイッチが押されている場合はステレオとなります。これにより、マイクおよび楽器などの場合は 2ch のモノラルとして、その他はステレオに設定できます。

配線は以下のようになっています。これは AES (Audio Engineering Society) が定めたものです。

バランス TRS フォン (1/4 インチ)

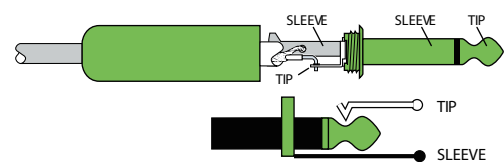
ホット (+)	チップ
コールド (-)	リング
シールド (グラウンド)	スリーブ



バランス TRS フォン (1/4 インチ)

アンバランスフォン (1/4 インチ)

ホット (+)	チップ
シールド (グラウンド)	スリーブ



アンバランスフォン (1/4 インチ)

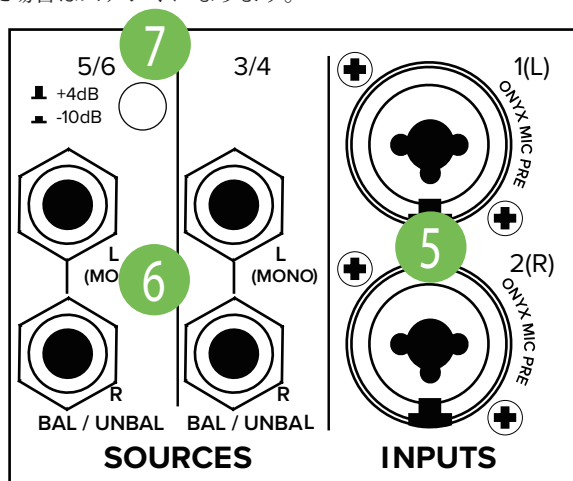


決してアンプからの出力を Big Knob の入力端子に接続しないで下さい。入力回路の破損の原因となる場合があります。

6. フォン入力端子

ソースからのラインレベルの信号をこれらの端子に接続します。

- ソースの入力端子は、バランスまたはアンバランスの信号を受けることができます。
- TRS フォン端子には、アンバランス TS (チップ - スリーブ) 端子も接続することができます。プラグの形状が TS タイプ (ギタープラグに似た形状) なのか、TRS タイプ (ヘッドフォンプラグに似た形状) でリングがスリーブに接続されているかを確認してください。また、プラグがジャックに奥までしっかりとさしこまれているかを確認してください。L の TRS 入力端子はモノ・サミング (両方のバス) ですが、L/R 両方にプラグが接続された場合はステレオになります。



これらのフォン端子は前ページで説明したコンボジャックと同じように配線します。



Big Knob Studio および Big Knob Studio+ のフロントパネルには、ステレオミニケーブルの入力端子があります。ステレオミニフォン端子とフォン端子を同時に接続することは可能ですが、同時に使用することはできません。同時に接続した場合、ステレオミニフォン端子がフォン端子よりも優先されます。Big Knob Studio ではリアパネルの 3/4、Big Knob Studio+ ではリアパネルの 5/6 になります。

NOTE

Big Knob Studio は 1 ペアのフォン入力端子を搭載しており、Big Knob Studio+ は 2 ペアのフォン入力端子を搭載しております。

7. +4 dB / -10 dB レベルスイッチ

この 2 ポジションのスイッチにより入力ソースのレベルを +4 dB (バランス入力、スイッチオフ) もしくは -10 dB (アンバランス入力、スイッチオン) に設定することができます。+4 dBu 基準で動作するプロフェッショナル機器では、+4 dB 設定を使用してください。-10dBV 基準で動作するコンシューマー向け機器では、-10 dB 設定を使用してください。

NOTE

これらのスイッチは Big Knob Studio の入力 3/4、Big Knob Studio+ の入力 5/6 に適用されます。

8. Aux Mix/Cue In フォン入力 [Big Knob Studio+]

このフォン入力は驚くほどパワフルです。アナログミキサーの L/R 出力をこれらの端子に接続することで、ミキサーからの複数の入力は全てステレオペアにダイヤルされ、ステレオの Aux Mix/Cue In 端子に入力させることができます。

その他、サウンドカードの出力をこれらの端子に接続する方法もあります。基本的に、外部ソースからのあらゆるミックスをこの端子に入力することができます。USB チャンネル 3/4 と同様に、アーティストに対し別のミックスを提供することが可能です。

- Aux Mix/Cue In 入力端子は、バランスまたはアンバランスの信号を受けることができます。
- TRS フォン端子には、アンバランス TS (チップ - スリーブ) 端子も接続することができます。プラグの形状が TS タイプ (ギタープラグに似た形状) なのか、TRS タイプ (ヘッドフォンプラグに似た形状) でリングがスリーブに接続されているかを確認してください。また、プラグがジャックに奥までしっかりとさしこまれているかを確認してください。L の TRS 入力端子はモノ・サミング (両方のバス) ですが、L/R 両方にプラグが接続された場合はステレオになります。

これらのフォン端子は前ページで説明したコンボジャックと同じように配線します。

内蔵 Talkback マイク (トップパネル)

MIC



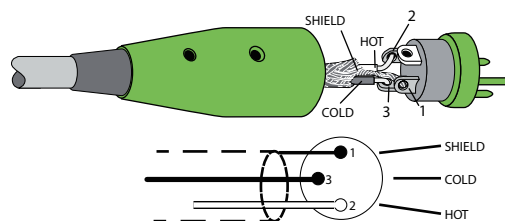
内蔵トークバックマイクは、Big Knob トップパネルの TRIM ノブと入力ソースレベルメーターの間に配置されています。このマイクは無指向性のため、Big Knob の前面ならばどこにいても音声を拾うことができます。トークバックアサインボタン [To 2-Track、To Cue] が押されている間にマイクが有効になります。

9. Talkback マイク XLR 入力 [Big Knob Studio+]

この XLR コネクタはトークバック用の外部バランスダイナミックマイク信号を受けることができます。配線は以下のようになっています。これは AES (Audio Engineering Society) が定めたものです。

バランス XLR

シールド (グラウンド)	ピン 1
ホット (+)	ピン 2
コールド (-)	ピン 3



NOTE

トークバックのレベルは、Talkback ノブでコントロールします。Talkback ノブは Big Knob のトップパネルに配置されているため、そのセクションで詳しく説明を行います。

10. Talkback Int/Ext スイッチ [Big Knob Studio+]

ノイズの多い環境に設置する場合、声のみでなく周囲の雑音を拾ってしまうため、内蔵のトークバックマイクでは上手くいかない場合があります。その場合、外部マイクを直接入力したほうが良い結果を得られるかもしれません。

外部マイクを使用する場合は、INT/EXT スイッチを押し込んでください。スイッチが押されていない場合入力端子にマイクが接続されていたとしても内部マイクが使用されます。スイッチを押し込むと内部マイクが遮断され外部マイクが使用されます。

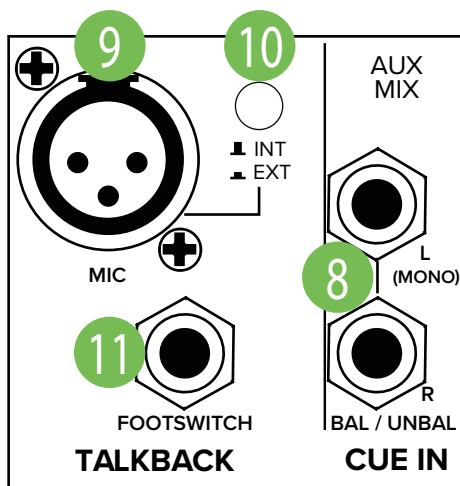
11. Footswitch 端子 [Big Knob Studio+]

このアンバランス TRS 端子は、お気に入りのフットスイッチを接続する端子になります。これにより、自由にトークバックのオン/オフを切り替えることができます。トークバックは Cue および -2-track 出力の両方にルーティングされます。詳しくは P.19 をご参照ください。

押している間のみスイッチがオンになるフットスイッチであれば、問題なく機能します。これはモーメンタリスイッチとなっております。フットスイッチを踏んでいる間だけトークバックが有効になります。(推奨品: Roland FS-5U)



VERY IMPORTANT Talkback スイッチが無効になっていることを確認してください。あなたのうるさい話を聞くことなく、バンドで楽しい時間が過ごせます。



出力部分の概要

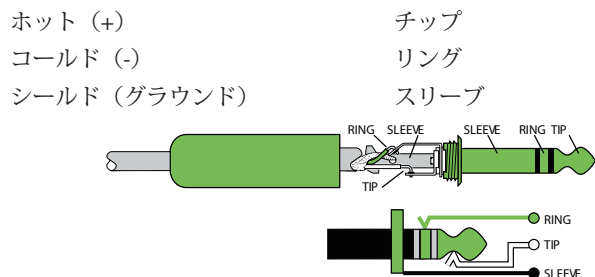
すべての Big Knob の出力はフォン端子です。様々な機器の入力端子に対応しています。

Studio/Phones Amp 出力はボリュームコントロールの影響を受けません。しかしモニター出力は「コントロールルームバス」より供給されます。これは現在 Source Select ボタンで選択されている入力から供給され、ボリュームノブの調整が加わった信号です。

- すべての出力端子は、バランスまたはアンバランスの信号を出力することができます。
- TRS フォン端子には、アンバランス TS (チップ - スリーブ) 端子も接続することができます。プラグの形状が TS タイプ (ギタープラグに似た形状) なのか、TRS タイプ (ヘッドフォンプラグに似た形状) でリングがスリーブに接続されているかを確認してください。また、プラグがジャックに奥までしっかりとさしこまれているかを確認してください。

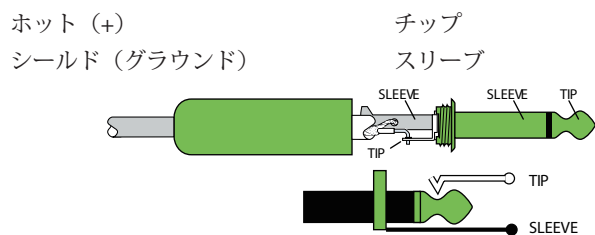
配線は以下のようになっています。これは AES (Audio Engineering Society) が定めたものです。

バランス TRS フォン (1/4 インチ)



バランス TRS フォン (1/4 インチ)

アンバランスフォン (1/4 インチ)



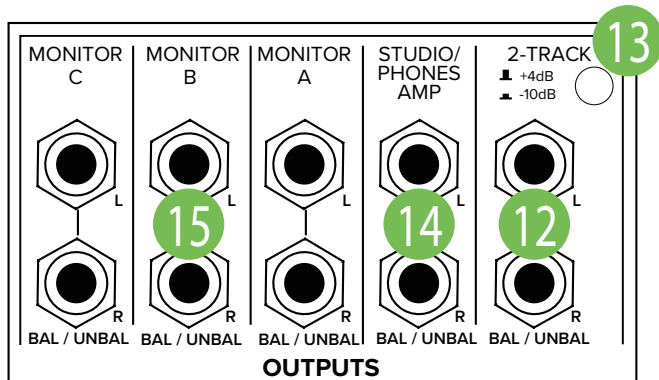
アンバランスフォン (1/4 インチ)

12. フォン 2-Track 出力端子

2-Track Source Select ボタンで選択したステレオ 2 トラック出力端子を、2 トラックレコーダーの入力端子に接続します。DAT デッキやカセットデッキ、オープンリールレコーダーなどをお使い頂けます。

13. +4 dB / -10 dB レベルスイッチ

この2ポジションのスイッチにより2トラックの出力レベルを+4 dB（バランス入力、スイッチオフ）もしくは-10 dB（アンバランス入力、スイッチオン）に設定することができます。+4 dBu 基準で動作するプロフェッショナル機器では、+4 dB 設定を使用してください。-10dBV 基準で動作するコンシューマー向け機器では、-10 dB 設定を使用してください。



14. Studio/Phones Amp 出力 [Big Knob Studio+]

これらの出力端子を以下の機器と接続します。

1. スタジオに設置されたパワードスタジオモニター（もしくはパッシブスピーカーをドライブするパワーアンプ）の入力端子に接続してください。これによりアーティストがヘッドフォンを用いることなくプレイバックを聴くことができ、またトークバックシステムを使ってエンジニアからアーティストへコミュニケーションをとることもできます。これらの出力端子のレベル調整は、トップパネルの Studio Outs Level コントロールから行うことができます。
2. 外部マルチヘッドフォンアンプの入力端子これにより複数のアーティストへプレイバックを提供することができます。Phones Amp 出力のレベルはトップパネルのボリュームノブおよびヘッドフォンのレベルコントロールの影響を受けません。ヘッドフォン出力レベルは、外部マルチヘッドフォンアンプで調整してください。

15. フォンモニター出力

パワードスタジオモニターの入力端子や、パッシブスピーカーを再生するためのパワーアンプの入力端子にこれらの端子を接続します。メインのバランスステレオ信号を出力します（2-Track Source Select で選択した入力ソースからの信号が出力されます）。

NOTE

Big Knob Studio は2ペアのフォン出力端子を搭載しており、Big Knob Studio+ は3ペアのフォン出力端子を搭載しております。

フロントパネルの機能

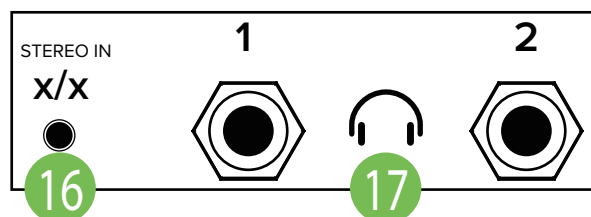
フロントパネルには必要最低限な2種類の端子が搭載されています。しかし両端子とも便利な機能になっていますので、それぞれについて解説します。

16. ステレオミニフォン入力端子

ステレオミニフォン入力は、スマートフォン、MP3 プレイヤー、などのソースからラインレベルの信号を受けることができます。



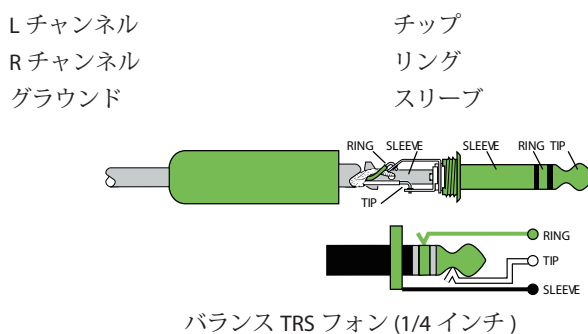
Big Knob Studio および Big Knob Studio+ のフロントパネルには、ステレオミニケーブルの入力端子があります。ステレオミニフォン端子とフォン端子を同時に接続することは可能ですが、同時に使用することはできません。同時に接続した場合、ステレオミニフォン端子がフォン端子よりも優先されます。Big Knob Studio ではリアパネルの3/4、Big Knob Studio+ ではリアパネルの5/6になります。



17. フォン端子

この TRS フォンコネクターからはヘッドフォン向けのステレオ信号が出力されます。ボリュームはトップパネル上の Phones ノブより調整することができます。これらの端子に送られる信号は、以降のページで説明される 2TR / CUE スwitchのポジションにより決定されます。

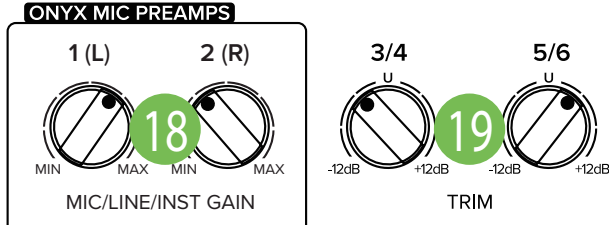
フォン出力の配線は以下の通りです。



このヘッドフォンアンプはかなりの音量で再生されることがあるため、難聴の原因となる場合があります。ヘッドフォンによっては中程度のレベルでも痛いほどの音量となる可能性があります。ご注意ください！ヘッドフォンを接続する前に、必ずノブを最小まで絞るようにして下さい。ボリュームの調整は、できる限りゆっくりと行うようにして下さい。

トップパネルの機能

トップパネルではあなたの好きなようにコントロールを行うことができます。リアパネルとフロントパネルでの接続が一通り終わったら、トップパネル上のスイッチやノブ、ボタン、ボリュームコントロールを確認していきましょう。トップパネルにはいくつかのLEDもありますので、それらについても確認しましょう。ただ"LED"は"ヒカル"だけで"コントロール"はできませんが、それでは詳細に移ります。



18. Mic/Line/Inst Gain ノブ

Gain ノブはマイクとライン入力の感度を調整します。外部から入力される信号を、各入力で扱う適切な操作レベルに調整することができます。

19. Trim ノブ

トリムノブは2トラックソースの入力感度を±12 dBの範囲で調整できます（ユニティで固定可能です）。これにより出力レベルコントロールを自身で備えていないことの多い様々な2トラックソースの、正確なレベルマッチングが可能となります。

NOTE 前述の Onyx マイクプリアンプのゲインノブ [1(L), 2(R)]に加えて、Big Knob Studio には1つのトリムノブ [3/4] が搭載されており、Big Knob Studio+ には2つのトリムノブ [3/4, 5/6] が搭載されています。

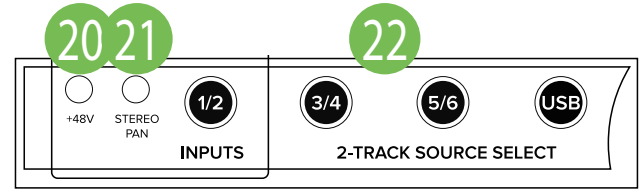
20. +48V ファンタム電源スイッチ [Ch.1 および Ch.2 のみ]

現在のプロ用コンデンサーマイクの多くは、ファンタム電源、つまりミキサーからマイクの回路へ音声を送る心線を通して送る低電流のDC電圧を必要とします（セミプロ用コンデンサーマイクはよく乾電池で同じことをしています）。「お化け」を意味するファンタムという名は、外部電源が不要でその影響も受けないダイナミックマイク（たとえば SHURE SM57 や SM58）からは「見えない」ことからきています。

お使いのマイクにファンタム電源を供給する必要がある場合、このスイッチを押してください。（マイクを接続する前には、毎回欠かさずこのスイッチのポジションを確認してください。）トップパネル中段の右側、ランニングマンの横にあるLEDが緑色に点灯している場合、ファンタム電源がオンになっていることを表しています。ファンタム電源はCh.1 および Ch.2 にのみ有効となりますので、ご注意ください。



ファンタム電源が有効になっている状態で、絶対にアンバランスマイクやリボンマイクを接続しないでください。安全だという確証がない限り、楽器などの出力をファンタム電源が有効になっている XLR 入力端子に接続しないでください。ファンタム電源が有効になっている時にマイクを XLR 入力端子に接続する際は、必ず該当チャンネルのゲインが下がりきっていることを事前に確認してください。これにより予期せぬポップ音を防ぐことができます。



21. Stereo Pan スイッチ [Ch.1 および Ch.2]

このスイッチを押すと、Ch.1 の信号はメインミックスの左側のみから、Ch.2 の信号は右側のみから出力されるようになります。言い換えると、このスイッチがオフになっている場合は、それぞれのモノラルチャンネルがメインミックスの左側と右側両方に均等に送られます。例えば：

- モノラル音源を再生する：入力1に接続されたマイクを用いて喋る場合、あなたの美声はモニターの左右両方から出力されます。
- モノラル音源をオーバーダビングする：ヘッドフォンを用いて直接モニタリングを行う場合、両耳でオーバーダブされた信号を演奏中に聴くことができます。

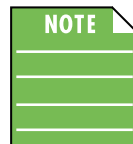
Record 出力はスイッチの影響を受けません。Ch.1 は常に USB の左側出力に信号を送っていて、Ch.2 は USB の右側出力に信号を送っています。

Stereo Pan スイッチはその他のチャンネルや USB には影響を与えません。

22. Input / 2-Track Source Select ボタン

これらのボタンは Big Knob に接続された入力信号のオン/オフの切り替えを行う際に使用します。ボタンをオンにすると、入力をそのモニター出力にアサインできます。どんな組み合わせでも複数同時にボタンを有効にすることができます。ボタンが有効になっている場合は、緑色に点灯します。

有効になった Source Select Button は、有効になったステレオモニター出力、2-Track ステレオ出力、Studio / Phones Amp 出力（Studio Outs ボタンが有効になっている場合）は、フロントパネルの1と2のヘッドフォン出力端子にアサインされます。



NOTE Big Knob Studio は3つの Source Select ボタン [1/2, 3/4, USB] が搭載されており、Big Knob Studio+ には4つの Source Select ボタン [1/2, 3/4, 5/6, USB] が搭載されています。



注意: Big Knob の入力と出力両方に 1 台の 2-Track のレコーディング機器が接続されている場合、フィードバックループを引き起こす可能性があります。もしレコーディング機器が録音、録音一位停止、もしくは入力モニターモードになっている場合、信号は 2-Track 出力からレコーディング機器に送られ、2-Track 入力に戻ってくることとなり、その結果ループが生成されハウリングを引き起こします。

2-Track レコーダーで録音を行う際は、該当する 2-Track 入力 Source Select Button をオフにしてください。

23. Cue Source ノブ [Big Knob Studio+]

Big Knob Studio+ は 3 ポジションのノブを搭載しており、どの入力ソースのレベルを Direct Monitoring ノブ (下記を参照してください) でコントロールするかを設定することができます。

ノブポジション (左、中央、右):

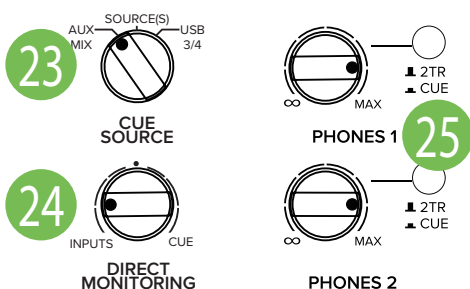
- ・ 左 - AUX MIX 入力のみを聴くことができます。
- ・ 中央 - 2-Track Source Select ボタンで選択した 3/4, 5/6 入力と USB の完璧なミックスを聴くことができます。ソースセクターではなくミキサーみたいな機能ですよ!
- ・ 右 - USB3/4 のみ聴くことができます - DAW からのリターンのみを聴くことができます。

24. Direct Monitoring ノブ

Direct Monitoring ノブは、Phones 出力および Studio 出力へ送られる、入力 1/2 [Big Knob Studio] と Cue Source で選択したソース [Big Knob Studio+/ 上記を参照してください] の信号のレベルを調整できます。もちろんこれはゼロ・レイテンシーです。

ノブポジション (左、中央、右):

- ・ 最も左 - 入力 1/2 = 最大ボリューム、Cue Source = ボリューム 0
- ・ 中央 - 入力 1/2 および Cue Source = 均等のボリューム
- ・ 最も右 - 入力 1/2 = ボリューム 0、Cue Source = 最大ボリューム



25. Phones ノブと 2-Track / Cue スイッチ

このノブはヘッドフォン出力端子からのボリュームを、オフ (-∞) から最大ゲイン (max) の範囲内で調整します。

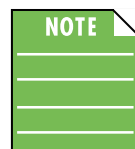


このヘッドフォンアンプはかなりの音量で再生されることがあるため、難聴の原因となる場合があります。ヘッドフォンによっては中程度のレベルでも痛いほどの音量となる可能性があります。ご注意ください! ヘッドフォンを接続する前に、必ずノブを最小まで絞るようにして下さい。ボリュームの調整は、できる限りゆっくりと行うようにして下さい。

2-Track / Cue スイッチはヘッドフォンがどこから信号を受け取るのかをコントロールすることができます。

スイッチ無効 [スイッチが押されていない状態] - フォン端子はメイン出力信号パスからの信号を受け取ります。信号はサミングされ、メインボリュームの調整は加えられていない状態です。

スイッチ有効 [スイッチが押されている状態] - ヘッドフォン端子は、Studio / Phones Amp 出力と同じ信号を出力します。



この機能により、入力ソースセクションで選択されているものか、Cue ミックスでミュージシャンが聴いているものかを選択することができます。



Big Knob Studio は 1 つの 2-Track / Cue スイッチを搭載しており、Big Knob Studio+ はそれぞれのヘッドフォン端子向けの 2 つの独立したスイッチを搭載しています。



26

26. Studio Outs オン / オフ ボタン [Big Knob Studio+]



27



LEVEL

このボタンにより、リアパネルの Studio / Phones Amp 端子から信号を出力するかどうかを設定することができます。Studio Outs ボタンは有効になっている際白色に点灯します。

27. Studio Outs Level ノブ [Big Knob Studio+]

このレベルノブは Studio / Phones Amp 出力端子からのボリュームを、オフ (-∞) から最大ゲイン (max) の範囲内で調整します。

28. Input メーター

これらのメーターは現在選択しているステレオ音源の信号レベルを表しています。メーターは信号レベルによって異なる色を表示する 16 個の LED が二列で構成されています。

一般的に良い結果を得るためには、ピークが緑色の LED から黄色の LED の間になるように調整してください。ジャマイカの国旗の色と似たような色ですよ。

赤色の LED はクリッピングしていることを表しています。クリッピングは予測できない歪みを発生する場合があるので、避けるように調整してください。頻繁に赤色の LED が点灯する場合は、Gain/Trim ノブを下げてください。

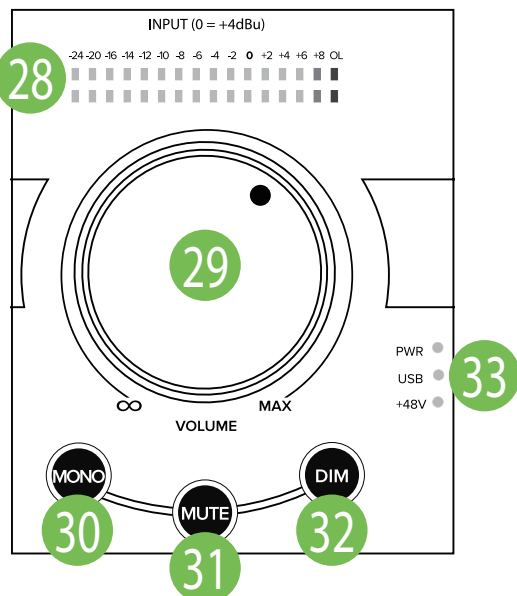
オーディオメーターはあくまであなたのレベルを大まかに表示するツールにすぎません。そのため、野球観戦のように常にじっと見る必要はありません。(見ていたいなら、それはそれでいいですが・・・)

29. 大きなボリュームノブ [通称 Big Knob]

Big Knob シリーズの最大の特長です。大きなボリュームノブ - 通称 Big Knob - は、選択した入力ソースの信号レベルを調整することができます。ボリュームノブの可動範囲はオフ (∞) からユニティゲイン (MAX) までです。



注意: 接続をしたり機器の変更をする際は、必ずボリュームをオフまで下げるようにしてください。機器が問題なく接続されていることを確認したら、ゆっくりとボリュームを上げてください。これによりスピーカーだけでなく、あなたの大切な耳も保護することができます。



30. Mono ボタン

Big Knob Studio の Mono スイッチとプラスチック消しゴムはまったく関係がございません。Mono と聞いて机のうえにある定番プラスチック消しゴムを思い浮かべた方もいらっしゃることでしょう。Mackie Big Knob Studio の Mono スイッチを押したとしてもこのマニュアルの文章や大切な録音データなど、何も消えることはございませんのでご安心ください。Big Knob Studio で使われている Mono はステレオの反意語、モノラルという意味です。

Mono ボタンを押すことで、ステレオの入力信号を単一のモノラル信号に変換し、出力することができます。L/R の入力信号が組み合わさり、L/R の出力からモノラルにて出力されます。これによりモノラルシステムで再生した際の、ステレオ信号の位相チェックを行うことができます。Mono ボタンは有効になっている際白色に点灯します。

31. Mute ボタン

Mute ボタンは、その名前の通りの役割を果たします。スイッチを押すことで、信号をミュートすることができます。Mute ボタンを押すと、ボリュームノブを最低まで回しきった状態と同じ結果を得ることができます。Mute ボタンは有効になっている際白色に点灯します。

32. Dim ボタン

このスイッチを押すことで、出力される信号を 20 dB 下げることができます。これによりスピーカーのレベルを下げることなく、スピーカーからの出力レベルを本質的に下げることができます。Dim ボタンは有効になっている際白色に点灯します。

33. PWR / USB / +48V LED

PWR LED は、電源コードが本体に接続され、電源がオンになった際に緑色に点灯します。もし LED が点灯しなかった場合、電源コードの両端が本体とコンセントに間違いなく接続されているかと、電源スイッチがオンになっているかをもう一度確認してください。

USB LED はコンピュータの電源が入っており、USB ケーブルを使用して Big Knob と問題なく接続できている際に、緑色に点灯します。Big Knob がオーディオインターフェースとして機能しているかを一目で判断することができます。

+48V LED は、ファンタム電源が有効になっている際に緑色に点灯します。ファンタム電源はマイクチャンネル 1-2 にのみ有効となっていますので、ご注意ください。

34. Monitor Select ボタン

これらのボタンは Big Knob からの出力信号のオン/オフ切り替えを行う際に使用します。このボタンを押すことで、現在選択されている入力ソースが、選択されたモニター出力端子より出力されます。ボタンが有効になっている場合は、緑色に点灯します。

NOTE どのような組み合わせでも同時にボタンを有効にすることができます。例えば、1つ、2つもしくはすべてのモニター出力を同時に有効化することも可能です。これにより、ペアのフルレンジスピーカーをモニター A および B の端子に接続すると同時に、モニター C の端子をサブウーファァー用を使用することもできます。モニター C のボタンはその場合「サブウーファァー IN/OUT」のように使用することで、サブウーファァーがある時とない時を手軽に比較することもできます。この機能を上手く使えば、友人をあっと言わせることもできますね。

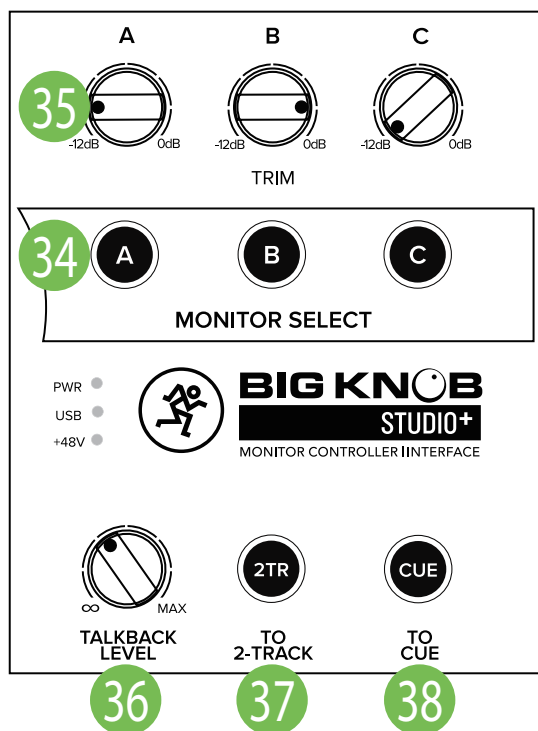
35. Trim ノブ

Trim ノブはモニター出力信号の感度を調整することができます。-12 dB から 0 dB [ユニティ: 0 dB] の間で自由に調整することができ、正確にマッチさせることができます。

Big Knob Studio は 2 ステレオの Trim ノブを搭載しており、Big Knob Studio+ は 3 ステレオの Trim ノブを搭載しております。

36. Talkback Level ノブ

このノブによりトークバックのレベルを調整することができます。ゲインは反時計回りに回し切る (∞) とオフになり、時計回りに回しきった際に最大 (MAX) となります。



37. To 2-Track ボタン [Big Knob Studio+]

このモーメンタリボタンを押し続けている間、Rec Src Select スイッチが無効になっている場合、トークバックが 2-Track 出力および USB 出力にルーティングされます。ボタンが有効になっている場合、LED が白色に点灯します。

NOTE To 2-Track ボタンと To Cue ボタンは同時に有効化することもできます。しかしながらフットスイッチは両方のボタンに反応しますのでご注意ください。

38. To Cue ボタン

このモーメンタリボタンを押し続けている間、トークバックが Studio / Phones Amp 出力とヘッドフォン出力にルーティングされます。

ボタンが有効になっている場合、信号が 20 dB 下がり、LED が白色に点灯します。

NOTE To 2-Track ボタンと To Cue ボタンは同時に有効化することもできます。しかしながらフットスイッチは両方のボタンに反応しますのでご注意ください。

1 Big Knob Studio は 2 つの Monitor Select ボタンを搭載しており、Big Knob Studio+ は 3 つの Monitor Select ボタンを搭載しております。

付録 A：サービスについて

Big Knob に問題が発生した場合は、下記の「トラブルシューティング」を参照して問題点をご確認ください。弊社ウェブサイトのサポートセクションをご覧ください (mackie-jp.com/support)。下記の内容に沿って状況を確認しても問題が解決しない場合、または明らかに製品が故障している場合は、ただちに使用を中止してこの製品をお求めの販売代理店まで修理をご依頼ください。

トラブルシューティング

電源が入らない

- 私たちの大好きな質問です。電源コードは接続されていますか？電源コードが電源アダプター、およびコンセントなどの電源にきちんと差し込まれていることを確認してください。電源が問題なく接続されていれば、Big Knob の電源状態に関わらず電源アダプターの LED が緑色に点灯します。
- 次にお気に入りの質問です：リアパネルの電源スイッチは ON の位置になっていますか？
- コンセントが電力を供給しているかテスターなどで確認して下さい。
- トップパネルの PWR LED は点灯していますか？点灯していない場合は、コンセントから電力が供給されているか確認して下さい。点灯している場合は、下記の「音が出ない」をご覧ください。
- 建物全体で電気が消えていますか？その場合は電力会社に連絡してください。
- 電源 LED が点灯しておらず、コンセントに問題がないことが分かっている場合、Big Knob に不具合がある可能性があります。その際は弊社までご連絡ください。内部のパーツは基本的にユーザー自身が取り替えることができるようにはなっていません。セクションの終わりにコンタクト先を記載しておりますので、弊社までご連絡ください。

音が出ない

- トップパネルの PWR LED は点灯していますか？点灯していない場合は、上記の「電源が入らない」をご覧ください。
- 正しい Input Source Select ボタンが選択されていますか？Input Source Select ボタンが点灯していることを確認してください。
- 音源の音量は上がっていますか？選択した Input Source の信号レベルが、Big Knob の Input Meter LED を点灯させる程度に調整してください。
- 選択した入力に対応する Trim コントロールとレベルスイッチが、正しく設定されているかどうか確認してください。
- Phones 出力および Studio 出力から音がでない場合：
- Studio Out ボタンがオンになっていることを確認してください。
- Phones および Studio のレベルが十分に上がっていることを確認してください。
- Monitor 出力から音がでない場合：
- 正しい Monitor Select ボタンが選択されており、選択したチャンネルに対応する Trim コントロールが適切に調整されているかを確認してください。
- Monitor 出力とアクティブスピーカーもしくはパワーアンプを接続しているケーブルに問題がないかを確認してください。

音が良くない

- ジャックは入出力端子の奥までしっかり差し込まれていますか？完全に接続されていることを改めて確認して下さい。
- 音量が大きくて歪んでいますか？選択した入力に対応する Trim コントロールとレベルスイッチが、正しく設定されているかどうか確認してください。音源の音量が適切なレベルに調整されているか確認して下さい。
- 可能であれば、ヘッドフォンで入力デバイスの音源を確認してください。もしそこで音が悪ければ、Big Knob 以外に原因があることが考えられます。
- Monitor 出力の Trim コントロールが適切に設定されており、アクティブスピーカーもしくはパワーアンプの入力段で過大入力が発生していないかどうかを確認してください。

ノイズ/ハム/バズ

- ソースと Big Knob の接続に使用されているケーブルを確認してください。全ての接続に問題はありませんか？ケーブルがしっかり接続されていないとノイズの原因になる場合があります。1つずつ確認を行ってください。ノイズがなくなった際に、どの入力ソースがノイズを発生しているかを特定することができます。
- 信号ケーブルを電源コードや電源トランスなど電磁干渉を発生するものの近くに設置しないでください。これらはしばしばノイズの原因となることがあります。
- ヒスノイズが発生している場合、Big Knob へ入力される前の段階でゲイン設定が適切に行われていない可能性があります。
- 全てのオーディオ機器を同じ AC 電源で共通のグラウンドを利用するようにすると、ノイズが抑えられる場合があります。

ご不明な点は…

- mackie-jp.com にアクセスしてサポートの項目をご覧ください。
- support_mackie@otk.co.jp までメールをお寄せください。
- テクニカルサポートセンターにお電話ください。
- 日本語：04-2944-3811（月～金曜、9am～6pm）
- 英語：1-800-898-3211（月～金曜、営業時間 PST）

付録 B：技術情報

Big Knob 仕様書

周波数特性

ユニティゲイン, +4 dBu 入力

全入力: ± 0.5 dB, 20 Hz – 20 kHz

全出力: ± 0.5 dB, 20 Hz – 20 kHz

ノイズ特性

150 Ω ターミネイト, 22 kHz 帯域幅

マイク入力 ~ 出力 (EIN): < -125 dBu RMS, A-weighted

ライン入力 ~ 出力: < -90 dBu RMS, un-weighted

歪率 (THD+N)

ユニティゲイン, 1 kHz @ +4 dBu 入力, 80 kHz 帯域幅

全入力 ~ 出力: $< 0.01\%$, un-weighted

クロストーク (LR チャンネル間)

ユニティゲイン, -1 dBFS 入力

マイク入力 ~ 出力: < -60 dB at 1 kHz

ライン入力 ~ 出力: < -60 dB at 1 kHz

アッテネート

ミュート: -60 dB

Dim: -20 dB

最大レベル (クリッピング前)

全入力: +22 dBu

全出力: +22 dBu

入力タイプ

入力タイプ:

バランス / アンバランス XLR メス

バランス / アンバランスフォンメス

ステレオミニフォンメス

出力タイプ

出力タイプ:

バランス / アンバランスフォンメス

USB

フォーマット:

USB 2.0, 24 ビット, 192 kHz

必要電源

ユニバーサル電源

100-240V ~ 50/60 Hz 0.75A

寸法・重量

Big Knob Studio

高さ: 81 mm

横幅: 251 mm

奥行き: 163 mm

重量: 1.6 kg

Big Knob Studio+

高さ: 81 mm

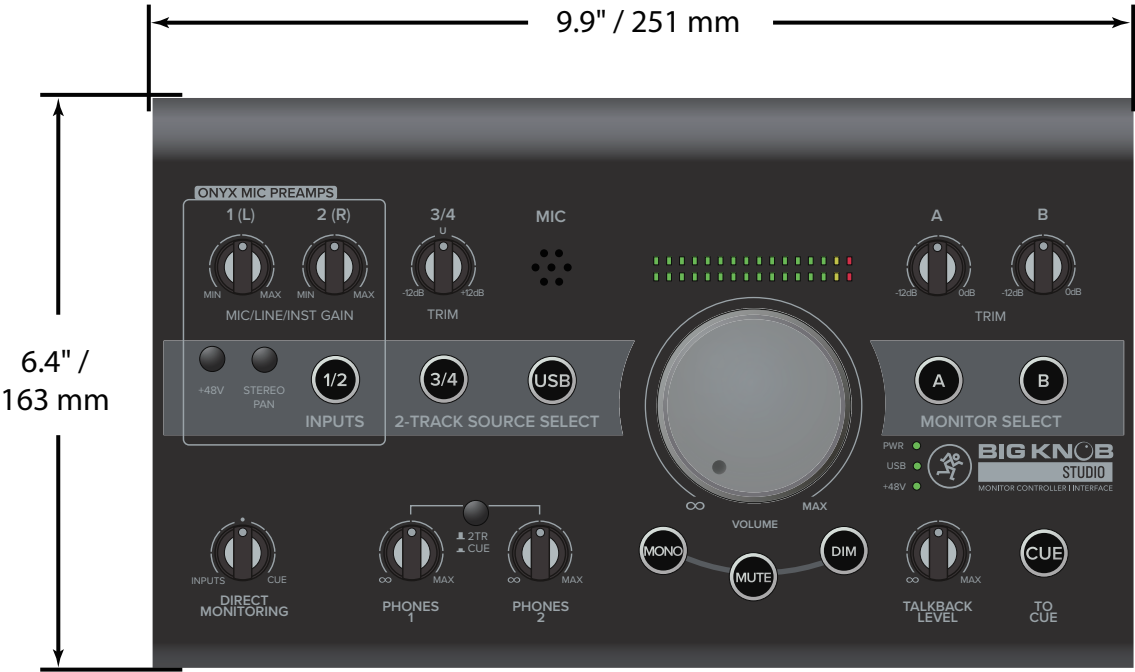
横幅: 302 mm

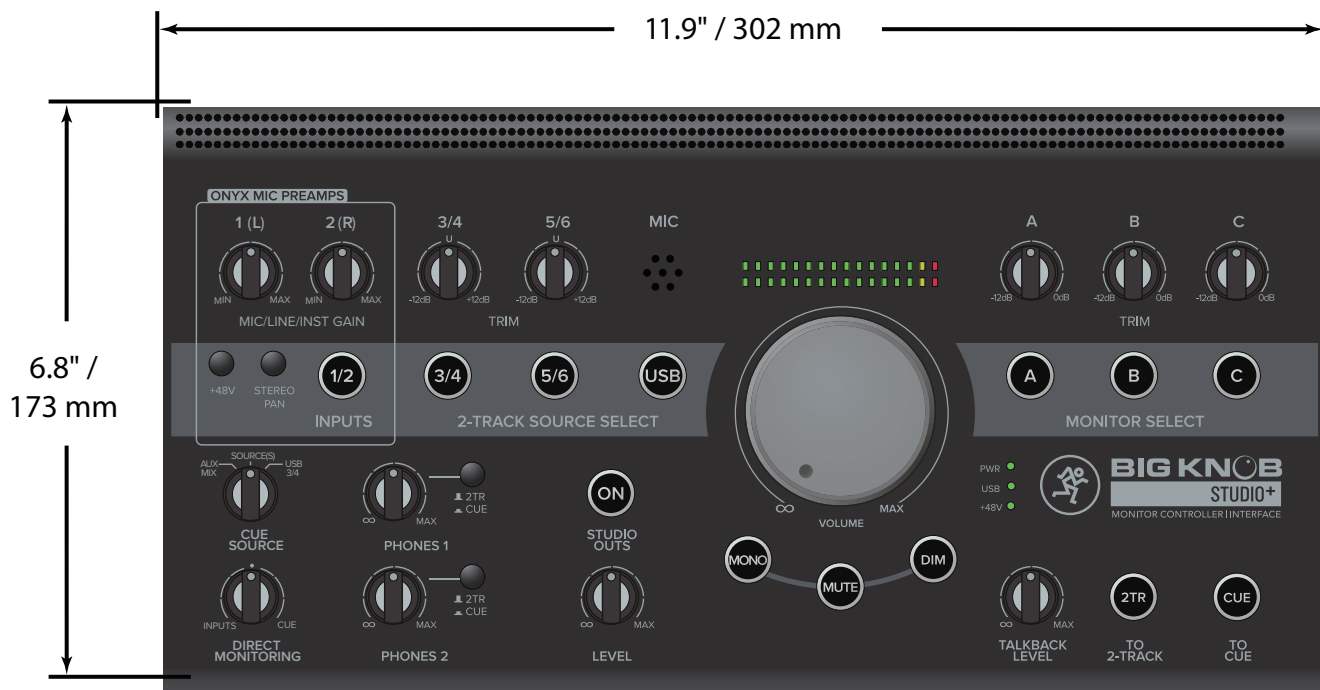
奥行き: 173 mm

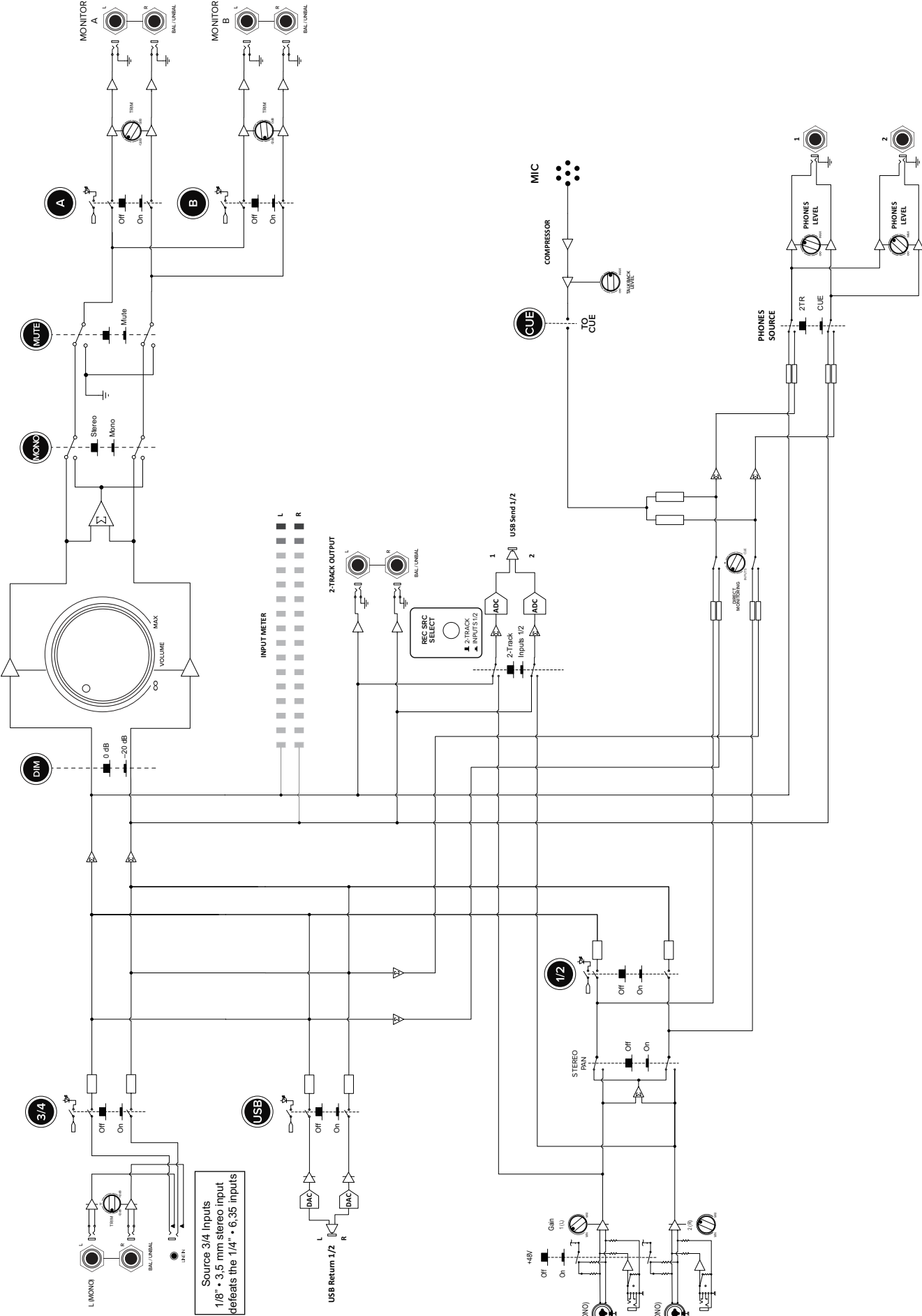
重量: 2.1 kg

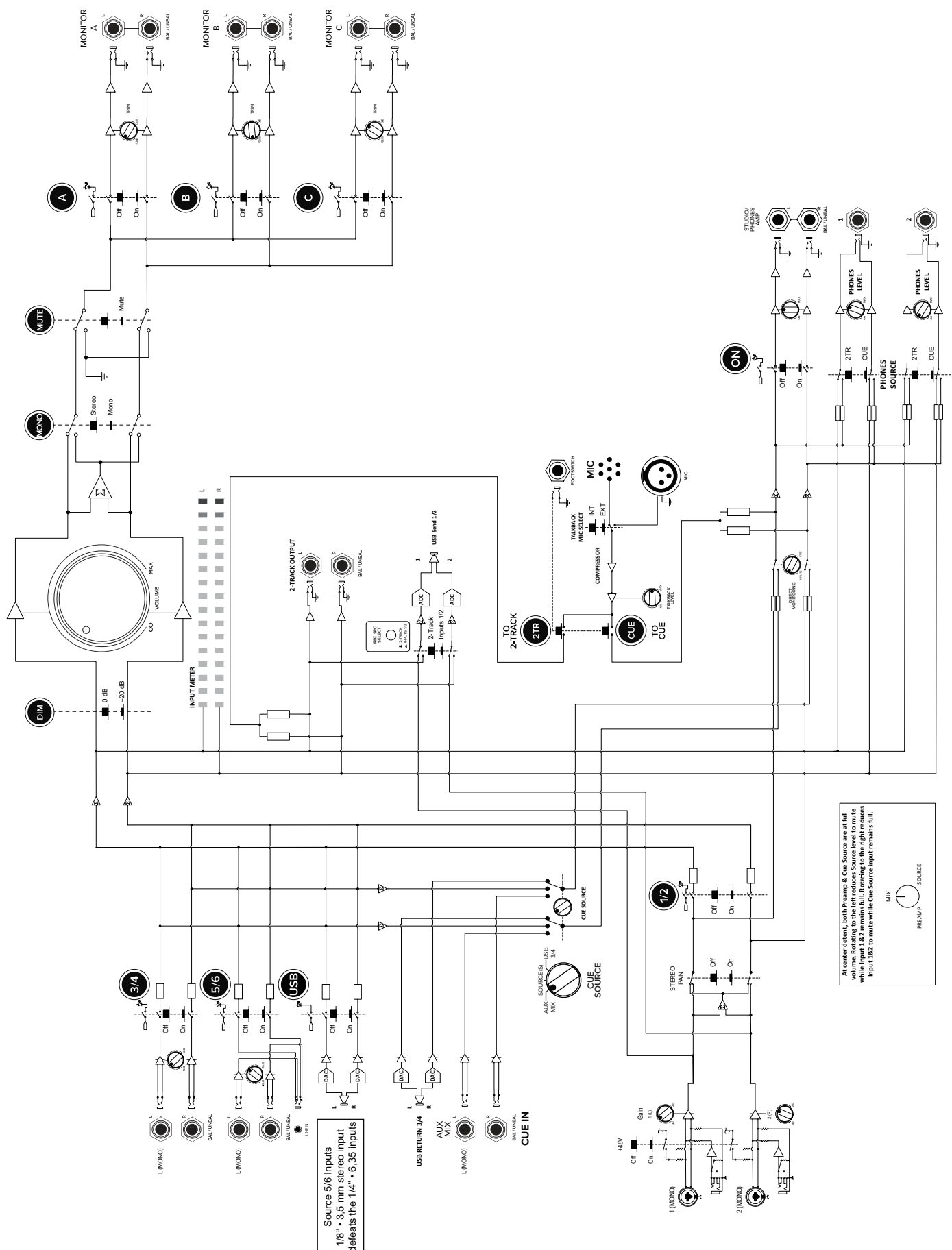
LOUD Technologies 社は、常に新しい素材、部品、製造方法を取り入れて製品を改善するよう努めているため、製品の外観および仕様は予告なく変更することがあります。

「ランニングマン」、「Running Man」は LOUD Technologies 社の登録商標です。他の商品名または会社名は各社の商標または登録商標です。









MEMO

